

平成21年度「学力向上フロンティア」事業企画書

学校名

京都府立海洋高等学校

1 テーマ及び設定理由

〔テーマ〕 「プロフェッショナル・アイズ アドバンス」

〔設定理由〕

平成19・20年度のフロンティア事業の取組は、研究活動の活性化や生産販売の拡充、それにともなった基礎学力の向上や高い進路実績へと成果を広げた。しかし、質の高い研究活動や生産販売、進路保障を実現するためには、一層の学力伸長と教師力の向上が今後の課題である。また、1stからの柱である研究開発プログラムでは、研究機関との共同研究をさらに強化し、生産販売プログラムでは海洋ブランドを立ち上げたい。さらに、2ndでのモチベーション・イノベーション・ステューディアスの各プログラムでは、家庭学習の強化や海洋マイスター検定などの取組を定着させ、生徒の意識向上を図りたい。

そこで今回は、テーマを「プロフェッショナル・アイズ アドバンス」と題して、1stでの土台となるプログラムの充実、2ndでの生徒の意識向上、さらに、アドバンスとして学力伸長や教師力向上、進路保障のための各種プログラムを取り入れ、本校の学力向上の指針を示したい。

2 当該年度の到達(数値)目標及び目標達成のための具体的方策

〔当該年度の到達目標〕 重点課題 抜粋

- (1) 学力の向上：学力向上月間の設定を年5回以上、外部試験（基礎力診断テスト、実力診断テスト）による偏差値を4ポイント以上向上させる。
- (2) 低学力層の底上げ：保健部、各教科、学年部の連携により欠点者をH20比で10%削減する。
- (3) 文章表現能力の向上：進路・教科・個別担当による日常的な小論文指導や、3回以上の外部講師活用、さらに小論文模試を年4回以上実施する。
- (4) 教師力の向上：特別講師による講演や研修会を2回以上実施、先進校の見学4校以上、企業研修へ3名以上参加するとともに、模擬試験の分析を4回以上実施する。
- (5) 研究活動の充実：研究テーマを10個以上、研究機関等との共同研究を5件以上実施する。
- (6) 生産・販売活動の推進：海洋市場、アンテナショップを10回以上開催する。

〔具体的方策〕

(1) 運営面

ア 月1回の推進会議を核に、学科部長・コース主任会議や普通科会議にて取組状況の確認や調整を行い、月毎に職員会議で進捗状況を報告する。

イ 広報資料（自己表現トライアル等月毎）の発行や学期毎に生徒アンケートを実施し、フロンティア事業への意識を高揚させる。

(2) アドバンスプログラム（3つのサポート）

ア 未来サポート（自立した学習者）

(ア) 1年次より分野別進路指導を7回以上実施し、学習目標を明確化させる。2年次後半からは希望大学別の個別サポートシステムを確立、週1回以上の補習で合格から入学まで徹底指導する。

(イ) 文章表現能力向上のため、大学講師の小論文指導や全校一斉の小論文模擬試験（2回）を実施するとともに、教科別小論文指導を10回実施する。（水産3、国語3、社会2、理科2）

イ ラーニングサポート

(ア) 全学年の進学希望者対象に、週4日の学力補習を実施する。（参加率80%以上、実施率100%）

(イ) 低学力層や特別支援を要する生徒に対し、数学・理科・保健部が連携して、理数計算を中心に学力の底上げを図り、欠点を減少させる。（ステップアップルームの活性化、毎日15分）

(ウ) 基礎力診断テストに向けた1weekトライアル補習を集中実施し、得点率の向上を図る。

(エ) 研究活動をとおして分析力と考察力の強化を図る。（南部水研最優秀賞、全国大会出場）

ウ ティーチーズサポート

(ア) 外部講師の講演会や先進校見学、民間研修に参加して指導力を高めるとともに、研究者としての視点を養う。

(イ) 模試分析会を設置し、課題克服に向けた対策や展望を検討する。（府高実力テスト、基礎力診断テスト）

(ウ) 中高連携の授業研究会（国、数、英）を実施し、中高接続を意識した教科指導を検討する。

(3) 研究開発プログラム：高大・研究機関との共同研究を強化する。（畜養マシ、エゼンクラゲ、ヒゲ肥料）

(4) 生産販売プログラム：新商品の開発（マシ缶、マシ缶）や生産物（トック、サ）の販売をとおして地域に貢献する。

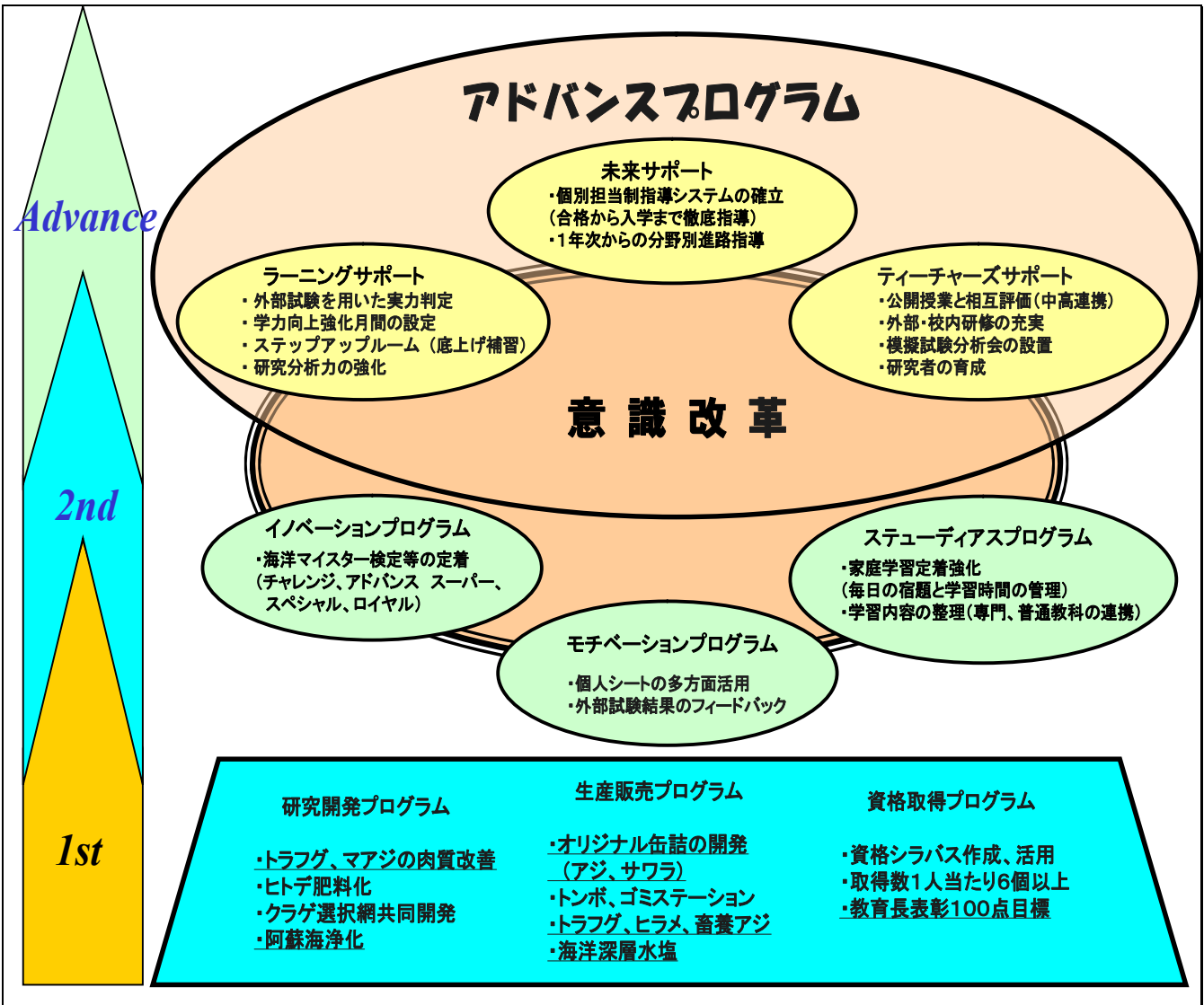
(5) 資格取得プログラム：資格シラバスを活用し、取得数の向上を図る。（一人6個以上、教育長表彰）

(6) モチベーションプログラム：個人シート（成績等）の定着、外部模試結果の学年通信を4回発行する。

(7) イノベーションプログラム：海洋検定「海洋マイスター」の定着を図る。（学期1回）

(8) ステューディアスプログラム：学習時間の管理と指導（週1回点検）、専門と普通教科の連携を強化する。

### 3 事業概要



### 4 概算経費

項目	主な用途
(1) 学力伸長等	アプリケーションソフト、外部講師旅費、教員研修費
(2) 研究開発等	調査機材、成分分析、生徒移動費、飼育研究費
(3) 生産販売等	飼料・薬品、原材料費、運搬費、会場設営費
(4) 共通	印刷費、(インク・紙・製本・プリンター)

### 5 評価と公表の計

#### [評価の方法]

- (1) 学校評価に位置づける。
- (2) 具体的数値目標に基づいた評価基準により評価する。
- (3) アンケート等を用いた客観的な要素を用いる。
- (4) A～Dの4段階評価法による。

#### [公表]

当事業の進捗状況や成果を本校 HP で定期的に公表する。また、学校評議員や PTA 役員には進捗状況及び実施結果を紙上にて報告し意見を聞くとともに、学校だよりや PTA だよりをとおして生徒及び保護者、さらに中学校への配布により、内容の定着を図る。また、他校へも取組を本校 HP 等で広く公表する。

#### 評価基準 (例)

学力向上に関して
5 偏差値 7 P 以上
4 偏差値 5 P
3 偏差値 3 P

#### 項目評価

A 十分達成できた
B ほぼ達成できた
C あまりできない
D ほとんどできない

当事業の担当者職・氏名

教諭 上野 憲史